震える体験！　英語で話す自信がついた！　唇SPEAK ENGLISH!

ESCA English Summer Camp 2018

イングリッシュ・サマー・キャンプに参加した「めぐろう」編集員２人の体験レポートです！

▲キャンプファイヤーの前で、クラス集合写真！

ESCA（エスカ）とは

ESCAは都立国際高校の１年生が夏休みの３日間を通して、群馬県にある嬬恋村のキャンプ場で英語だけで生活する都立国際高校独自の行事です。3日間英語だけで過ごすことによって、英語の表現力・発信力等が身に付きます。

ESCAの3日間の活動紹介

★スタディーセッション

ESCAでは、クラスを越えて英語力で分けられたグループの仲間とともに、グループごとに出された課題について話し合い、最終日にはプレゼンテーションを行います。今年の全体のテーマは、SDGs（持続可能な開発目標）で、17あるグローバル目標の中から1つを、グループごとに選びました。

ただ、英語オンリーで意見を述べることに慣れていない“純ジャパ”（日本生まれ日本育ちの日本人で、海外に住んだことのない人を指す都立国際高校ならではの単語）たちにとっては、「とうとう追い詰められたな」という気持ちでいっぱいでした。でもそれがこのスタディーセッションの醍醐味ともいえることで、辛くて日本語をしゃべりたくとも、英語の出来る友達や先生たちが、分かりやすくゆっくりしゃべってくれたり、気にかけてくれるから、頑張ろうという気持ちになれます。

改めて、英語の大切さを感じた2泊3日でした。

★SDGsについてのプレゼンテーション

さて、今年のESCAプレゼンテーションのテーマはSDGsでしたが、皆さんはこれが何だか知っていますか。

これは2015年、国連で採択された持続可能な開発のための17のグローバル目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成された目標です。例に挙げるとNo Hunger（飢餓をゼロに）やQuality Of Education（質の高い教育をみんなに）などがあります。私たちはこの17の目標の中から1つを選び、2日間で意見を交換しあい、最終日にグループのみんなと、他のグループや先生達の前でプレゼンテーションを行いました。スケッチブックに絵を描いて、分かりやすくしていたグループや、大きい模造紙に論点をまとめ、内容を充実させていたグループなどさまざまで、見ている側もとても勉強になりました。もちろんプレゼンテーションも英語で行うので、私は読む原稿を考えるとき、何回もネイティブの先生と相談し、よりよいものに仕上げました。ジェスチャーも交え、個性も出すように心がけました。

助っ人のネイティブの先生は各グループに1人つき、プレゼンをよりよくしようとたくさんのアドバイスをくれ、本番直前には、「頑張れ！　君たちならできる！」と励ましてくれました。

▲一緒にプレゼンテーションをしたグループの写真。大きな模造紙に図や表、絵を描き、分かりやすくまとめました。「平和と公正をすべての人に」というテーマで発表しました。